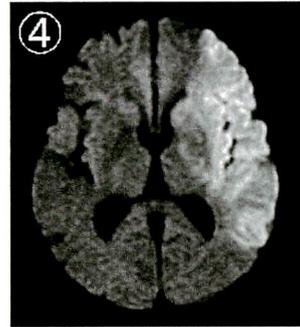
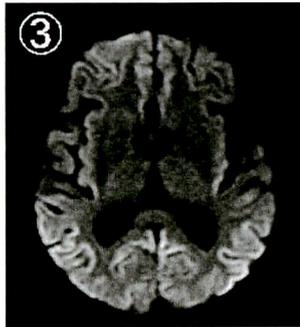
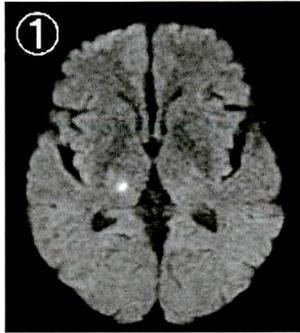


1 頭部MRI拡散協調画像を示す。

ラクナ梗塞はどれか。

- a ①
- b ②
- c ③
- d ④
- e ⑤



頭部MRI拡散協調画像

2 発熱性好中球減少症について誤っているのはどれか。

- a 重篤になりやすい。
- b 起因菌が同定されないことが多い。
- c 好中球が低下した際に起こす感染症である。
- d 重症感染症により好中球減少をおこす病態である。
- e 起因菌同定前に、緑膿菌までカバーする抗菌薬を十分量投与する。

3 血漿ADHが低値を示すのはどれか。

- a 脱水症
- b SIADH
- c 腎性尿崩症
- d 中枢性尿崩症
- e 非代償性肝硬変

4 原発性無月経の原因部位としてもっとも多いのはどれか。

- a 視床下部
- b 下垂体
- c 甲状腺
- d 子宮
- e 卵巣

5 ヘリコバクターピロリ感染に対する除菌療法が有用でないのはどれか。

- a 胃潰瘍
- b 進行胃癌
- c 胃MALTリンパ腫
- d 特発性血小板減少性紫斑病
- e 早期胃癌の内視鏡的粘膜切除術後

6 急性ウイルス性心筋炎について誤っているのはどれか。

- a 上気道感染や消化器症状を初発症状となることが多い。
- b 心筋逸脱酵素の上昇を認める。
- c 心電図でST上昇を認める。
- d 致死性不整脈を合併することがある。
- e 心不全が生じることはまれである。

7 複視が出現し搬送された患者の、開眼時の眼球位置の模式図を示す。

考えられる責任病巣はどこか。

- a 視床
- b 内包
- c 脳幹
- d 尾状核
- e 前頭葉



模式図

8 再生不良性貧血について誤っているのはどれか。

- a 血清鉄値の上昇を認める。
- b 正球性正色素性貧血である。
- c 自家末梢血幹細胞移植の適応はない。
- d 骨髓穿刺で造血細胞の減少を認める。
- e 末梢血において相対的に好中球が増加している。

9 急性呼吸促進症候群（ARDS）と急性肺損傷（ALI）の診断基準と病態について誤っているのはどれか。

- a 肺動脈楔入圧は 18 mmHg 以下である。
- b 心原性肺水腫は、ARDS/ALI の一要因である。
- c ARDS と ALI は、 $\text{PaO}_2/\text{FiO}_2$  の違いで定義されている。
- d 胸部エックス線写真では、両側びまん性陰影で肺水腫を呈する。
- e 原因疾患は種々あるが、どちらも高サイトカイン血症が本態である。

10 インスリノーマについて正しいのはどれか。2つ選べ。

- a るいそうをきたす。
- b 造影CTで濃染像を示す。
- c 10%が悪性腫瘍である。
- d 血中C-peptideは低値を示す。
- e 選択的動脈内カルシウム負荷試験でインスリン分泌が抑制される。

11 長期血液透析患者にみられる合併症はどれか。2つ選べ。

- a 肥満
- b 手根管症候群
- c 巨赤芽球性貧血
- d 多嚢胞化萎縮腎
- e 原発性副甲状腺機能亢進症

12 ペニシリン系抗菌薬が有効なのはどれか。2つ選べ。

- a 梅毒
- b 放線菌症
- c MRSA肺炎
- d 在郷軍人病
- e ノカルジア症

13 多発性内分泌腫瘍＜MEN＞ⅡA型を構成しないのはどれか。

- a 褐色細胞腫
- b 甲状腺髄様癌
- c Sipple症候群
- d プロラクチノーマ
- e 原発性副甲状腺機能亢進症

14 先天性横隔膜ヘルニアについて誤っているのはどれか。

- a 肺低形成を合併することが多い。
- b 右Bochdalek孔ヘルニアが多い。
- c NO療法の適応となることが多い。
- d 腸回転異常を合併することが多い。
- e 乳児期発見例は、胎児期発見例より予後が良い。

15 胎児期に重大な形態異常を認めなかった児が出生し、Down症候群様の顔貌をしていた。出生当日の両親への対応で正しいのはどれか。

- a 全身状態が安定していたので、母児同室とした。
- b 母親から隔離し、合併奇形がないかどうか検査した。
- c 両親に話す前に、確定診断のための染色体検査をおこなった。
- d Down症候群であると両親に話し、療育や今後のサポート体制について説明した。
- e 染色体異常を合併している可能性を伝え、インターネットで知識を得るように指示した。

16 正しいのはどれか。2つ選べ。

- a ポリ塩化ビフェニル (PCB) は環境中では分解されやすい。
- b 塩化ビニルは門脈圧亢進を引き起こす。
- c ニトロベンゼンは膀胱がんの原因物質である。
- d ニトログリコールには末梢血管収縮作用がある。
- e イソシアネートはぜん息の原因物質である。

17 胃内異物で早期に摘出を考慮すべきものはどれか。

- a 1円玉
- b 長さ5mmの義歯
- c 薬1錠分の包装 (PTP)
- d 直径8mmのボタン電池
- e 直径2cmのプラスチック製の玩具

18 神経性食欲不振症でみられないのはどれか。

- a 著明なやせ
- b 無月経
- c 徐脈
- d 心肥大
- e 自己誘発嘔吐

19 頭頸部癌について正しいのはどれか。

- a 舌下腺癌は大唾液腺由来である。
- b 重複癌として肺癌との併発が最も多い。
- c 組織型は腺癌が最も多い。
- d 甲状腺癌は男性により多く発生する。
- e 下咽頭癌の初期症状は嘔声である。

20 ブドウ球菌食中毒について正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 食品の加熱で予防する。
- b 患者には抗菌薬を投与する。
- c 潜伏期間は1~3時間である。
- d 予防には使い捨て手袋が用いられる。
- e 魚介類が原因食品であることが多い。

21 2歳の男児。全身性強直間代性けいれんを起こしたため救急車で来院した。2日前から発熱があり、解熱薬のみで経過をみていた。来院時、けいれんは持続し意識混濁を認めた。6歳の兄が5日前にインフルエンザの診断を受けているという。

身長85cm、体重12.5kg。体温40.1℃。脈拍150/分、整。

血液所見：赤血球450万/ $\mu$ l、Hb11.8g/dl、白血球12,000/ $\mu$ l、血小板25万/ $\mu$ l、

血液生化学所見：総蛋白6.0g/dl、アルブミン3.2g/dl、尿素窒素10mg/dl、クレアチニン0.12mg/dl、AST1,800IU/l、ALT1,500IU/l、CK450U/l (基準:60~290)であった。頭部単純CTを示す。

正しいのはどれか。

- a 髄液検査で細胞数増多を認める。
- b プロトロンビン時間の短縮を認める。
- c 高血糖を認める。
- d 血中アンモニアの上昇を認める。
- e 腎臓の脂肪変性を認める。



頭部単純CT

22 71歳の男性。5年前より労作時呼吸困難を自覚していた。半年前から下肢浮腫を時折認めており、近頃は労作時呼吸困難のため休み休みでなければ50m以上歩行できない状態であった。3日前から発熱、喀痰の増量および呼吸困難の増悪を認めたため、当院を受診した。

喫煙歴は20本/日を51年間。意識清明、体温38.2℃、脈拍110回/分、血圧140/70mmHg、聴診上全肺野にwheezeを聴取、両下腿の浮腫とばち指を認めた。動脈血液ガス分析では、大気下でpH7.33、PaCO<sub>2</sub>69Torr、PaO<sub>2</sub>55Torr、HCO<sub>3</sub><sup>-</sup>34mEq/lであった。

正しいのはどれか。

- a 鼻カニューラで酸素0.5l/min投与を開始する。
- b 酸素療法中のモニターはパルスオキシメータで十分である。
- c この患者の近頃の労作時呼吸困難はF-HJ分類のⅢ度に相当する。
- d リザーバーバッグ付きのフェイスマスクで酸素10l/min投与を開始する。
- e 酸素吸入では対処できないため、直ちに気管内挿管し人工呼吸管理を開始する。

23 70歳の女性。腹痛を主訴に来院した。昨夜から悪心嘔吐を伴う腹痛がある。60歳の時に直腸癌に対する手術の既往がある。腹部に肝脾を触知しない。腹部は軽度膨満し腸蠕動音の亢進が認められる。下腹部正中に手術痕を認め、直下に圧痛を伴う腫瘤を認める。血液所見は赤血球370万、Hb 10.8 g/dl、Ht 34%、白血球10,200、血小板30万、総蛋白6.3 g/dl、アルブミン3.0 g/dl、AST 30 IU/l、ALT 25 IU/l、LD 410 IU/l (基準176~353)、ALP 230 IU/l (115~359)、CRP 4.0 mg/dl。腹部造影CTを示す。

診断は次のうちどれか。

- a 直腸癌再発
- b 鼠径ヘルニア
- c 大腿ヘルニア
- d 閉鎖孔ヘルニア
- e 腹壁癒痕ヘルニア



腹部造影CT

24 発達正常な1歳10か月の男児。約2分間のけいれん発作を認め救急搬送された。半日前から38℃台の発熱がみられていた。けいれんは左右対称性の四肢の強直間代けいれんで、意識消失と眼球上転、口唇チアノーゼを伴っていた。来院時、体温38.7℃、脈拍160回/分、SpO<sub>2</sub> 99%で、意識は回復しており、啼泣と追合視を認め、けいれんは消失しており、自力座位が可能である。

次のうち正しいのはどれか。

- a 脳波検査でヒプスアリスミアを認める。
- b 髄液検査をして抗菌薬を静注する。
- c ジアゼパムを静注する。
- d 頭蓋内出血を疑って頭部CT検査を行う。
- e 発熱の原因としてインフルエンザや突発性発疹が多い。

25 49歳の女性。最近頻りに動悸やのぼせがあり、人前で突然汗をかくのが恥ずかしくて受診した。夜間に目が覚めるとその後は眠れないし、気分が落ち込む日が続くという。月経はここ半年間発来していない。子宮は正常大で両付属器に異常は見られない。血液検査を行ったところゴナドトロピンが上昇し、エストラジオールは測定感度以下であった。

正しいのはどれか。

- a 排卵誘発剤を投与する。
- b ホルモン補充療法の適応はない。
- c 本人の性格と症状には関連がある。
- d 黄体ホルモン薬を投与して月経を促す。
- e ゴナドトロピンが上昇したために卵巣機能が抑制されている。

26 62歳の女性。特記すべき既往歴はない。1年前前から、行動範囲が徐々に狭くなり、体の動きにくさが出てきた。話をしても語彙が減少し、疎通もとりにくくなり、社会との関わりも減少。自分の清潔への関心もなくなっていった。手の動きや話の内容が、同じことを繰り返し、周りで止めても止まらないこともしばしばあった。

病院で検査をしたところ、血圧や脈拍は正常で、血液検査、脳波検査でも異常は指摘できなかったが、頭部MRI上で前頭葉と側頭葉に局限した萎縮を認めた。

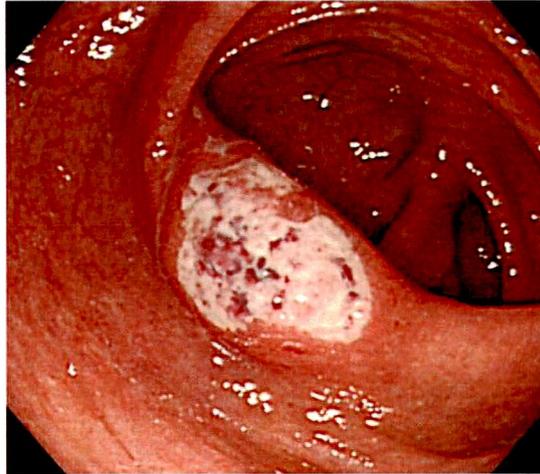
診断としてもっとも考えられるのは何か。

- a Alzheimer型認知症
- b Creutzfeldt-Jakob病
- c Lewy小体型認知症
- d 進行性核上性麻痺
- e Pick病

27 22歳の男性。4日前に生の鳥肉を食した。昨日より1日20行の水様下痢便と腹痛が出現し、嘔気・嘔吐、発熱、粘血便も認めため来院した。薬物使用歴なし。海外渡航歴なし。体温37.8℃。腹部：平坦、軟。右下腹部に軽度圧痛を認める。血液所見：赤血球510万、Hb 15.2 g/dl、白血球12,700、血小板22万。血液生化学所見：総蛋白7.2 g/dl、AST 28 IU/l、ALT 22 IU/l。免疫学所見：CRP 3.2 mg/dl。大腸内視鏡写真を示す。

治療薬として適切なのはどれか。

- a 止痢薬
- b 抗菌薬
- c 抗ウイルス薬
- d 副腎皮質ステロイド薬
- e 5-アミノサリチル酸製剤



大腸内視鏡写真

28 49歳の男性。2日前から夜間歩行時に冷汗を伴う胸部圧迫感を自覚していたが放置していた。本日の朝、混雑する駅の階段を登った後、同様の症状が出現し、意識を消失して倒れた。偶然近くを通ったあなたはこれを目撃した。周囲の人々は皆とまどっている。

あなたが行うべきこととして正しいのはどれか。

- a
- b
- c
- d
- e

29 重喫煙者の55歳の男性。咳嗽を主訴に来院し、臨床病期IV期肺腺癌の診断でゲフィチニブによる治療が開始された。治療開始後2週間で呼吸困難を呈した。

正しいのはどれか。

- a 発熱は伴わない。
- b 咳嗽は伴わない。
- c 予後良好である。
- d ステロイド治療を行う。
- e ゲフィチニブ投与を継続する。

30 78歳の男性。両手足のしびれ、歩行困難を主訴に受診した。

現病歴：ここ数年下痢をしやすい、体重も徐々に減っている。手足の先がしびれ、特に両下肢のしびれがひどい。

既往歴：25年前に胃癌のため胃切除、Billroth II法による再建を受けている。

生活歴：喫煙なし。25年前から飲酒はやめている。

現 症：身長165 cm、体重49 kg。意識は清明。体温36.1℃。脈拍64/分、整。血圧132/76 mmHg。皮膚は乾燥。舌乳頭の萎縮を認める。Romberg 徴候陽性。失調性歩行がみられる。髄膜刺激徴候なし。膝蓋腱反射は亢進、アキレス腱反射は消失。両側Babinski反射陽性。両下肢の位置覚と振動覚の低下を認める。

検査所見：尿所見：蛋白(-)、糖(-)、潜血(-)、ビリルビン1+。血液所見：赤血球355万、Hb 8.6 g/dl、Ht 43%、MCV 121  $\mu\text{m}^3$ 、白血球3,800、好中球の過分葉を認める。生化学所見：総ビリルビン3.5 mg/dl、直接ビリルビン0.4 mg/dl、AST 61 IU/l、ALT 31 IU/l、LD 412 U/l (基準115~245)、随時血糖値92 mg/dl。

欠乏しているのはどれか。

- a ビタミンA
- b ビタミンB<sub>1</sub>
- c ビタミンB<sub>6</sub>
- d ビタミンB<sub>12</sub>
- e ビタミンD

31 55歳の男性。15年前から検診で高血圧と尿蛋白を指摘されているが放置。半年前から体が疲れ易くなった。妻に受診をすすめられて来院した。体温36.3℃、脈拍84/min、血圧160/100 mmHg、心音純、肺音清、腹部軟、両下腿浮腫を軽度認める。両眼底に乳頭浮腫なし。

尿検査：尿蛋白+、尿糖(-)、尿潜血(-)。尿沈渣：赤血球0~1/1視野、白血球0~1/1視野、尿蛋白定量0.26g/日。

血液所見：RBC 316万、Hb 9.4 g/dl、Ht 29.8%、WBC 5200、PLT 20.1万。

血液生化学所見：総蛋白6.5 g/dl、アルブミン4.1 g/dl、尿素窒素45 mg/dl、クレアチニン4.1 mg/dl、Na 139 mEq/l、K 4.7 mEq/l、Cl 106 mEq/l、Ca 8.6 mg/dl、P 6.5 mg/d、CRP < 0.2 mg/dl、鉄69  $\mu\text{g/dl}$  (基準44~192)、TIBC 211  $\mu\text{g/dl}$  (基準250~380)、葉酸4.6 ng/ml (基準3.1以上)、ビタミンB<sub>12</sub> 362 pg/ml (基準180~914)、エリスロポエチン15.0 mIU/ml (基準2.8~17.2)、フェリチン300 ng/ml (基準5~152)、便潜血陰性。

腹部超音波検査：両側腎臓の萎縮を認める。

治療はどれか。

- a 扁桃摘出術
- b 鉄剤静脈投与
- c エリスロポエチン静脈投与
- d 副腎皮質ステロイド経口投与
- e ビスフォスフォネート経口投与

32 23歳の男性。腹痛を主訴に来院した。昨夜より上腹部の痛みが出現し、今朝になり腹痛が強くなり、右下腹部に限局してきた。体温37.5℃、腹部は平坦で、腸蠕動は低下している。右下腹部に圧痛を認める。血液所見：白血球9,800 (好中球86%)、CT上虫垂腫大を認める。入院し、禁食、点滴、抗生剤を投与したが、翌日も腹痛、発熱は改善しなかった。血液所見：白血球14,000 (好中球83%)。

次に行う治療として適切なのはどれか。

- a 手術
- b 緩下剤
- c 高圧浣腸
- d 抗菌薬の変更
- e イレウス管挿入

33 1歳6か月の男児。3日前より嘔吐と白色下痢便を認めていた。昨夜から20~30分おきに泣いて機嫌が悪い時と機嫌がよい時を繰り返すようになり、今朝より血便を認めたため来院した。腹部所見は平坦で軟、腸蠕動は亢進しており、右側腹部に軟らかい腫瘤を触れた。浣腸で赤褐色の粘血便を認めた。

この症例について最も適切なのはどれか。

- a 再発しやすい。
- b 病態は絞扼性イレウスである。
- c 低クロール性代謝性アシドーシスを認める。
- d 下部消化管造影検査でstring signを認める。
- e 水溶性造影剤整復の液面の高さは0.5 m以下とする。

34 35歳の初産婦。妊娠34週。妊娠健康診査のために来院した。これまでの妊娠経過には異常を認めていなかった。血圧144/92 mmHg。尿所見：蛋白2+、糖(-)。血液所見：赤血球380万、Hb 13.5 g/dl、Ht 40%、白血球9,000、血小板20万、PT 88% (基準80~120)。血液生化学所見：総蛋白6.5 g/dl、アルブミン3.2 g/dl、尿素窒素16 mg/dl、クレアチニン0.8 mg/dl、尿酸7.5 mg/dl、AST 28 IU/l、ALT 26 IU/l、LD 350 IU/l (基準176~353)、Na 135 mEq/l、K 4.4 mEq/l、Cl 101 mEq/l、Ca 7.8 mEq/l。腹部超音波検査で胎児推定体重1,400 gである。

母児管理を行う上で最も注意すべきなのはどれか。

- a 血圧
- b 尿蛋白
- c 血小板数
- d 胎児推定体重
- e 肝機能検査値

35 18歳の男子。中学生時は生徒会活動にも積極的に参加し友人も多かった。高校に入学して間もなく、担任の教師に叱責されたことをきっかけに学校を休みがちになった。また口数が減り、友人との交流も途絶えがちとなった。家族や教師の説得にも応じず、1年後には不登校となり、自室にこもりがちで、昼夜逆転の生活を送るようになった。次第に家族の前で食事をしなくなり、母親が作った食事を運んで自室で食べるようになった。最近「食事に毒を入れている」「監視されていて外にでられない」と訴えるようになり、食事も水分のみとなり体重も減少した。意識は清明。神経学的所見に明らかな異常は認められない。表情は硬く、質問以外のことは語ろうとしない。精神保健指定医が診察を行い、精神疾患を疑い入院が必要と判断したが、「自分は病気ではない。」と強く入院を拒否している。両親は入院による治療を希望している。

この場合に適用される精神保健福祉法に基づく入院形態はどれか。

- a 任意入院
- b 応急入院
- c 措置入院
- d 緊急措置入院
- e 医療保護入院

36 6歳の男児。2歳ころからアトピー性皮膚炎に罹患して、現在もほぼ全身に湿疹がみられる。3日前から発熱を伴って顔面から全身に小水疱が多発した。顔面の臨床写真を示す。Tzanck試験で巨細胞を認めた。

最も適切な治療薬はどれか。

- a 抗菌薬
- b 抗真菌薬
- c 免疫抑制薬
- d 抗ウイルス薬
- e 副腎皮質ステロイド薬



臨床写真

37 33歳の女性。3日前からの左顎下部腫脹を主訴に来院した。1年前より同様の症状を数回反復している。頸部造影CTを示す。

正しいのはどれか。

- a Sjogren症候群に合併しやすい。
- b 頬粘膜に排膿がみられる。
- c 舌下腺摘出が有効である。
- d 症状は摂食時に増強する。
- e 無痛性である。



頸部造影CT

38 62歳の男性。検診の超音波検査で写真のような所見がみられたため、当院へ紹介受診となった。本症例について次のうち誤っているのはどれか。

- a 高齢者に多い。
- b 腎生検により診断する。
- c 無症状であることが多い。
- d 偶然発見されることが多い。
- e 治療対象となることは少ない。



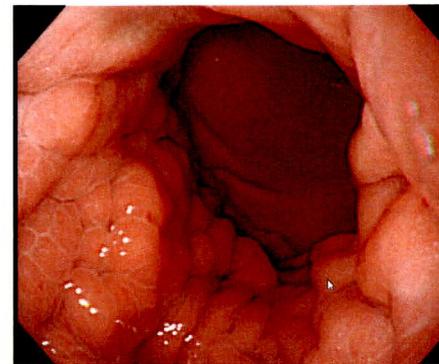
超音波検査写真

39 50歳の女性。2か月前から食思不振と嘔気が出現し、体重が4kg減少したため来院した。

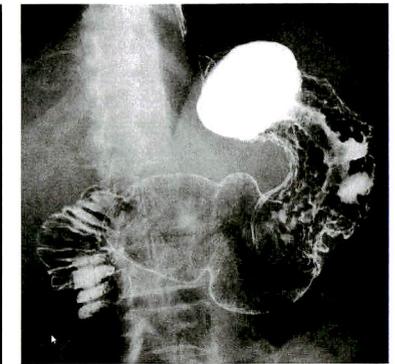
既往歴は特記すべきことはない。身長152cm、体重47kg、体温36.2℃、脈拍72/分、整。血圧110/62mmHg。眼瞼結膜に軽度の貧血を認める。眼球結膜に黄染を認めない。頸部・左鎖骨上窩リンパ節は触知しない。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。血液所見：赤血球386万、Hb 10.8g/dl、Ht 35%、白血球3,800、血小板30万。血液生化学所見：総蛋白6.9g/dl、アルブミン4.3g/dl、AST 14IU/l、ALT 10IU/l。免疫学所見：CRP 0.1mg/dl、CEA 1.0ng/ml（基準5以下）。胃内視鏡写真と上部消化管造影写真を示す。

この患者の鑑別診断として考えにくいのはどれか。

- a 胃癌
- b 胃平滑筋腫
- c 好酸球性胃炎
- d 胃悪性リンパ腫
- e Ménétrier症候群



胃内視鏡写真



上部消化管造影写真

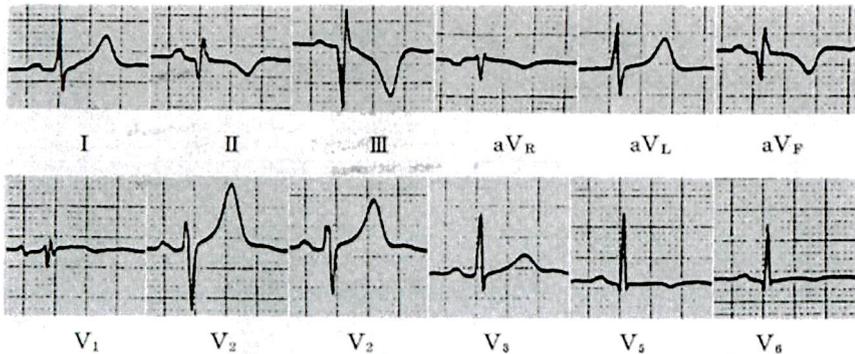
40 32歳の男性。突然の胸背部痛を主訴に来院した。以前より拡張期心雑音を指摘されていた。身長195 cm、体重85 kg。血圧200/110 mmHg。図に示すような特徴的な体格を認めた。来院時の心電図を示す。胸部エックス線写真では縦隔陰影の拡大を認めた。

本症例において正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 合併症として、水晶体亜脱臼の頻度が高い。
- b 先ず心臓カテーテル検査を緊急で行う必要がある。
- c 緊急で外科的手術適応が考慮される可能性は極めて低い。
- d CTまたはMRIで腰仙硬膜拡張症が確認されることがある。
- e 本疾患の原因として遺伝的素因が関連している可能性は否定的である。



図



心電図

41 47歳の女性。1年前から両側足先のしびれ感が出現し、その後バランスが悪くなり、歩行障害が出現したため来院した。神経系の診察では、両側下肢膝下の異常感覚を伴った感覚鈍麻を認めたが、筋力の低下はなかった。四肢の深部腱反射は亢進し、両側でBabinski徴候を認めた。血液検査でHTLV-1抗体が陽性であった。

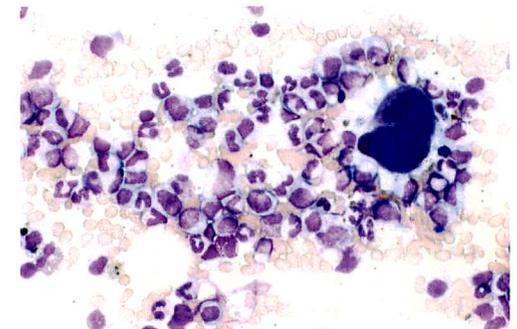
随伴する症状として正しいのはどれか。

- a 認知症
- b 小脳失調
- c 排尿障害
- d 意識消失発作
- e 眼球運動障害

42 39歳の男性。労作時の息切れを自覚して来院した。体温36.8℃。脈拍85/分、整。血圧127/78 mmHg。表在リンパ節は触知しない。眼瞼結膜に貧血を認める。心音と呼吸音に異常を認めない。肝脾触知なし。1年前に胸腺腫を摘出している。血液所見：赤血球287万、Hb 8.5 g/dl、Ht 25.4%、白血球4,300 / $\mu$ l、血小板34.7万 / $\mu$ l。血清生化学所見：総蛋白7.2 g/dl、アルブミン4.0 g/dl、尿素窒素16 mg/dl、クレアチニン0.7 mg/dl、総ビリルビン0.5 mg/dl、AST 18 IU、ALT 21 IU、LDH 216 IU/l (基準176~353)、血清フェリチン225 ng/ml (基準8~53)、CRP 0.8 mg/dl。精査のため骨髄検査を施行した。骨髄塗抹標本を示す。

この疾患の治療について適切なものはどれか。2つ選べ。

- a 抗菌薬
- b 代謝拮抗薬
- c シクロスポリン
- d アントラサイクリン
- e 副腎皮質ステロイド薬

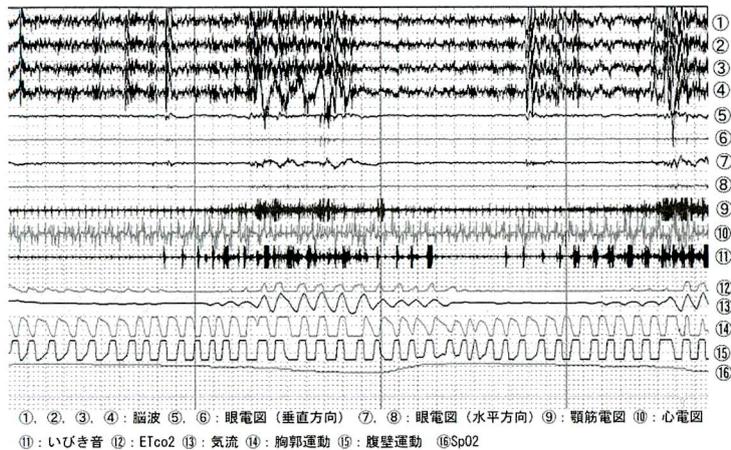


骨髄塗抹標本

43 46歳の男性。夜間の不眠と日中の眠気を主訴に来院した。業務中の運転でも居眠りしやすくなり、いらいらしやすくなったとも感じている。身長170 cm、体重80 kg。視診上、扁桃肥大および軟口蓋低位が認められた。抑うつ気分や不安感はなく、夜間に足がむずむずする違和感はない。喫煙は1日30本。毎晩、日本酒3合の晩酌をしている。夜間睡眠時ポリグラフの結果を図に示す。

本患者について正しいのはどれか。

- a 慢性心不全が原因と考えられる。
- b 鼻中隔矯正術が治療の第一選択である。
- c 口蓋垂口蓋咽頭形成術は必須ではない。
- d 不眠症に対し、晩酌を中止し睡眠薬の内服を勧める。
- e 夜間睡眠時ポリグラフでCheyne-Stokes呼吸が認められる。



図

44 58歳の女性。口渇、多飲、多尿および食欲不振を主訴に来院した。

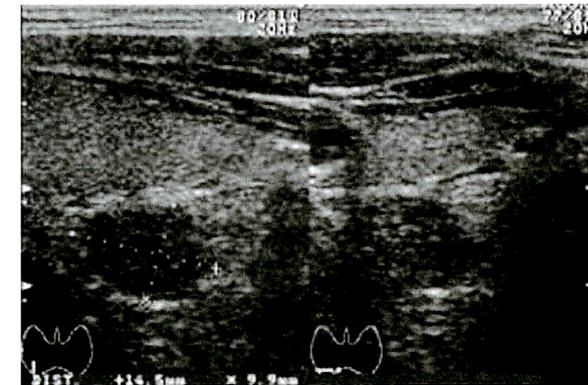
現病歴：1か月前より口渇が出現し、1日に2 lの水分を摂取している。同時期より夜間尿を認めている。1週間前より食欲不振が出現し、体重は1か月で3 kg減少している。

既往歴：52歳に尿管結石で体外衝撃波結石破碎術を施行されている。

家族歴：特記すべきことはない。

受診時身体診察：意識清明。身長162 cm、体重50 kg。体温36.0℃。脈拍87/分、整。血圧98/60 mmHg。頸部は甲状腺腫を触れない。その他、異常所見を認めない。

検査所見：尿所見：糖(-)、蛋白(-)、潜血(-)。血液所見：血糖108 mg/dl、総蛋白7.2 g/dl、アルブミン4.1 g/dl、尿素窒素20.4 mg/dl、クレアチニン0.8 mg/dl、Na 142 mEq/l、K 4.3 mEq/l、Ca 12.6 mg/dl、P 1.8 mg/dl、TSH 1.86 μU/ml (基準0.3~4.0)、FT4 1.2 ng/dl (基準1.0~1.8)、副甲状腺ホルモン-インタクト 260 pg/ml (基準10~65)。頸部超音波所見を図に示す。

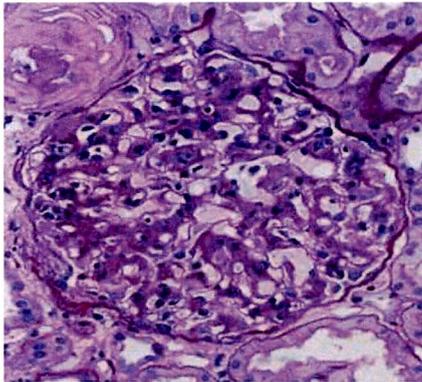


頸部超音波所見

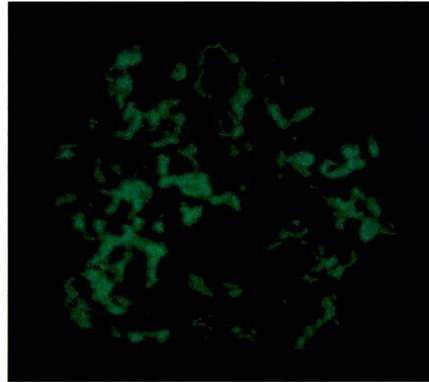
本疾患にみられる臨床的特徴はどれか。2つ選べ。

- a 男性に多い。
- b 悪性の頻度が高い。
- c 代謝性アシドーシスをきたす。
- d 尿中カルシウム排泄は増加する。
- e <sup>131</sup>I-MIBGシンチグラフで集積する。

45 42歳の男性。尿所見の異常を主訴に来院した。3年前に健康診断で尿検査異常を指摘されたが受診しなかった。今年の健康診断でも同じ異常を指摘されたため来院した。身長160 cm、体重60 kg。脈拍72/分、整。血圧142/84 mmHg。口蓋扁桃腫大あり。心音と呼吸音に異常なし。腹部は平坦、軟。四肢に浮腫なし。尿所見：蛋白2+、糖(-)、潜血3+、尿蛋白1.6 g/日。血液所見：赤血球452万、Hb 13.6 g/dl、Ht 39%、白血球7,300、血小板17万。血液生化学所見：総蛋白7.2 g/dl、アルブミン4.3 g/dl、尿素窒素18 mg/dl、クレアチニン1.4 mg/dl、尿酸7.4 mg/dl、Na 140 mEq/l、K 4.6 mEq/l、Cl 104 mEq/l。免疫学所見：IgG 1,330 mg/dl (基準739~1,649) IgA 253 mg/dl (基準107~363)、抗核抗体陰性。腎生検のPAS染色標本、蛍光抗体法IgA染色標本を示す。



腎生検のPAS染色標本



蛍光抗体法IgA染色標本

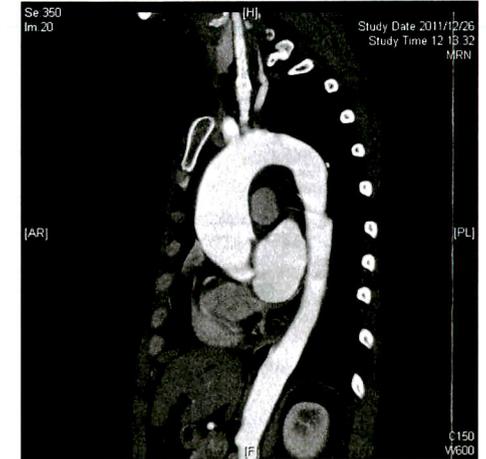
この患者に対する治療方針として適切でないのはどれか。

- a 蛋白制限食
- b 抗血小板薬投与
- c ステロイド療法
- d 非ステロイド性抗炎症薬投与
- e アンジオテンシン変換酵素阻害薬投与

46 38歳の女性。労作時息切れを主訴に来院した。1年前から呼吸困難を自覚するようになり、この2か月で徐々に症状が増悪するようになった。左橈骨動脈の拍動は微弱である。心エコーにてⅢ度の大動脈弁閉鎖不全症を認める。血液所見：赤沈50 mm/1時間、白血球9,800。免疫学所見：CRP 1.5 mg/dl。抗核抗体陰性。胸部造影CTを示す。

この疾患でみられないのはどれか。

- a めまい
- b 視力障害
- c 手指の壊疽
- d 胸部大動脈瘤
- e 腎血管性高血圧



胸部造影CT

47 42歳の男性。約5年前から嚥下時に食物のつかえ感を自覚していた。最近つかえ感が増悪し、時々食物を吐き出すようになった。食道造影写真を示す。

正しいのはどれか。

- a 消化管運動促進薬が有効である。
- b プロトンポンプ阻害薬が有効である。
- c 手術的治療としては、下部食道部分切除術を行う。
- d 食道内圧検査では下部食道括約部の機能が正常である。
- e 手術的治療としては、下部食道筋層切開術 (Heller法) を行う。



食道造影写真

48 22歳の健康な女性。最近、47歳になる父親が筋緊張性ジストロフィーと診断され、自分にも遺伝している可能性について心配し、遺伝カウンセリングのため来院した。

正しいのはどれか。

- a 女性の発症リスクは0%である。
- b 女性の発症リスクは25%である。
- c 女性の発症リスクは50%である。
- d 女性の発症リスクは75%である。
- e 女性は100%発症する。

49 28歳の初産婦。22週で破水後、入院管理となり、抗菌薬、子宮収縮抑制薬の投与により28週になった。子宮口は2cm開大している。超音波断層法で推定児体重は1,100g、膀胱は確認できるが羊水腔はほとんどない。NSTで散発的な子宮収縮を認めるが、一過性徐脈はみられず基線細変動は保たれている。

新生児予後に最も関連するのはどれか。

- a 脳室内出血
- b 肺低形成
- c 胎便吸引症候群
- d 腎不全
- e 敗血症

50 38歳の男性が自殺企図で火炎による全身熱傷を受傷し救急搬送された。受傷範囲は顔面、体幹、四肢すべてに及び、熱傷面積は63%であった。写真は前胸部から腹部にかけて減張切開を行った後の状態である。

この患者についての記述で正しいものを2つ選べ。

- a 気道熱傷の確認は必要ない。
- b Artzの基準により初期輸液量を計算する。
- c 前胸部の減張切開は呼吸の補助として行われた。
- d Lund & Browderの法とは熱傷面積の算出法である。
- e Burn IndexとはⅡ度とⅢ度の熱傷面積を単純加算して求める。

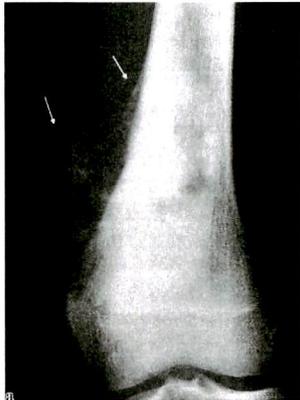


写真

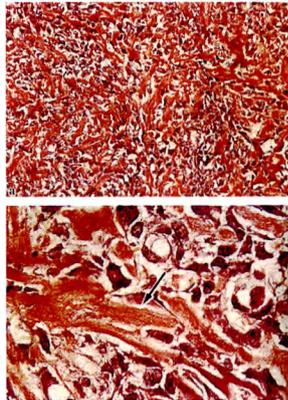
51 15歳の男子。右膝痛を主訴に来院した。2か月前に体育の授業中にジャンプした際に痛みを感じた。安静によって一時軽快したが、1週間前から痛みが再発し増悪傾向にある。既往歴・家族歴に特記すべきことはない。身長150 cm、体重43 kg。右膝関節可動域は正常である。LDH 344 IU/l(基準176~353)、ALP 1,824 IU/l(基準115~359)。初診時の右膝エックス線写真と大腿骨遠位部の骨生検H-E染色標本を示す。

対応として適切なのはどれか。

- a 経過観察
- b 持続洗浄
- c 関節固定術
- d 病巣搔爬・骨移植術
- e 広範切除・人工関節置換術



右膝エックス線写真



骨生検H-E染色標本

52 25歳の男性。バイク走行中に車と衝突し搬入された。来院時、意識清明。体温37℃。呼吸数24/分。脈拍140/分、整。収縮期血圧60 mmHg。SpO<sub>2</sub> 100% (酸素10 l/分投与下)。冷感と湿潤あり。強い腹痛を訴えており、エコーにて、腹腔内に中等量の液体貯留を認め、胸腔内や心嚢には液体貯留は認めなかった。胸部と骨盤の単純エックス線は異常無し。初期輸液として細胞外液組成の輸液を2 l急速に投与後、脈拍120/分、整。収縮期血圧65 mmHg。冷感と湿潤は改善なし。

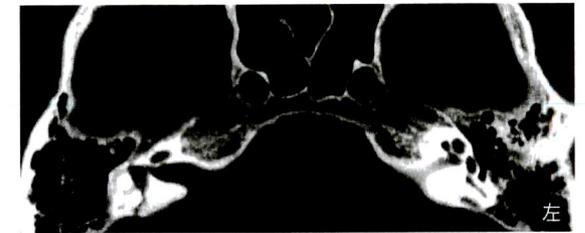
この後の対応として適切でないのはどれか。

- a 気管挿管
- b 輸血の準備
- c 腹部造影CT
- d 緊急開腹手術
- e 家族への連絡

53 18歳の男性。自転車で転倒して右側頭部を強打したため搬入された。意識は清明。右末梢性顔面神経麻痺を認める。側頭骨高分解能CTを示す。

この患者に認められる可能性が低い症候はどれか。

- a 嘔声
- b 難聴
- c めまい
- d 味覚障害
- e 目の乾き

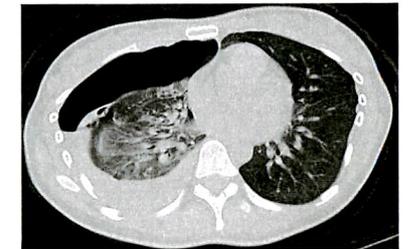


側頭骨高分解能CT

54 40歳の男性。ベランダより転落し、胸部を打撲した。

胸部CT検査から最も考えられる診断はどれか。

- a 右膿胸
- b 右血気胸
- c 右乳び胸
- d 右自然気胸
- e 多発肋骨骨折



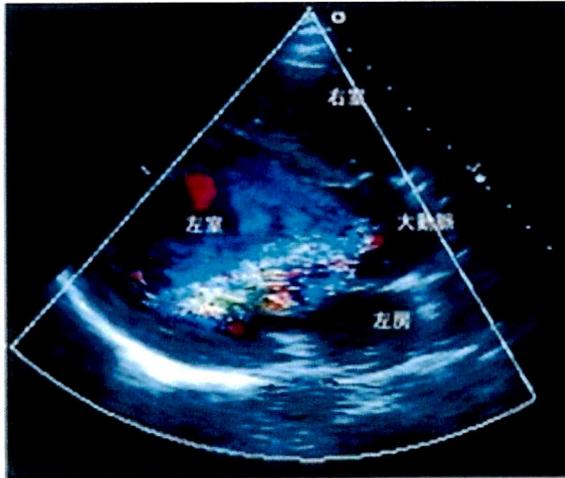
胸部CT

55 45歳の男性。1か月前からの胸痛を主訴に来院した。10年前に心雑音を指摘された事がある。意識は清明。身長165cm、体重58kg。体温36.4℃。脈拍58/分。整。血圧120/36mmHg。胸骨左縁第3肋間で3/6度の拡張期雑音を聴取する。呼吸音に異常を認めない。

赤血球420万、Hb14.0g/dl、白血球6,800、血小板21万、尿素窒素15.0mg/dl、クレアチニン0.8mg/dl、AST20IU/l、ALT15IU/l。心エコー図を示す。

最も必要性の低い検査はどれか。

- a 染色体検査
- b 胸部造影CT
- c Holter心電図
- d 心臓核医学検査
- e 心臓カテーテル検査



心エコー図

56 76歳の女性。大腿骨頸部骨折で入院した。入院2日後の夜間、急に「孫が来たから食事の支度をしないと」と言い張り、病棟内を歩き回ろうとする行動がみられた。翌日は落ち着いており、前夜の事を尋ねても覚えていない。入院前に精神症状は認められていない。

この患者にみられたのはどれか。

- a 意識障害
- b 知能障害
- c 思路障害
- d 感情障害
- e 自我障害

57 66歳の男性。1年以上前に右大腿の黒子に気付いた。半年前より急に大きくなってきたため当科を受診した。右大腿の写真と同部の病理組織H-E染色標本を示す。

考えられる疾患はどれか。

- a Paget病
- b 有棘細胞癌
- c 基底細胞癌
- d 悪性黒色腫
- e 毛細血管拡張性肉芽腫



右大腿の写真



病理組織H-E染色標本

58 40歳の男性。右顔面の麻痺を主訴に来院した。4日前から右耳痛、右軽度難聴および右顔面の違和感が続いていた。昨日から飲水時に右口角から水が漏れ、今朝から右眼が閉じられなくなった。右耳介の写真を示す。

誤っているのはどれか。

- a 聴力検査で感音難聴を認める。
- b 右アブミ骨筋反射は減弱する。
- c 右額のしわ寄せは可能である。
- d 舌右側の味覚の低下がみられる。
- e 水痘・带状疱疹ウイルスの再活性化が原因である。



右耳介

59 50歳の男性。突然生じた左腰部痛と肉眼的血尿を主訴に来院した。痛風の既往歴がある。尿沈渣に赤血球多数 / 視野、白血球1~4 / 視野。腹部超音波検査で左水腎症を認める。腹部エックス線写真で異常を認めない。

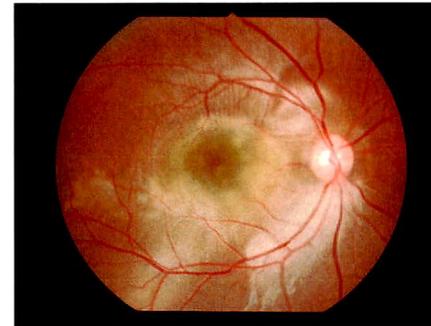
診断に有用なのはどれか。

- a 尿培養
- b 腎動脈造影
- c 膀胱鏡検査
- d レノグラム
- e 腹部単純CT

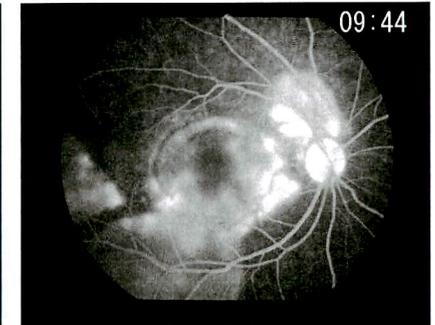
60 60歳の女性。1か月ほど前から頭痛や耳鳴り、両眼の視力低下を自覚し、徐々に進行してきたため来院した。視力は矯正にて右0.6、左0.5、眼圧は右17 mmHg、左18 mmHg。両眼ともに軽度の充血と、前房内には炎症所見を認めた。眼底所見、蛍光眼底写真を示す。

その他に認められる所見はどれか。2つ選べ。

- a 皮膚の白斑
- b 針反応陽性
- c 両側肺門リンパ節腫脹
- d 無菌性髄膜炎
- e 外陰部潰瘍



眼底所見



蛍光眼底写真